

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高等学校における演劇等ワークショップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8658)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 28,226 千円 (前年度予算額：16,774 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,774	8,387	0	0	0	0	0	0	8,387
要求額	28,226	8,387	0	0	0	0	0	0	19,839
決定額	28,226	8,387	0	0	0	0	0	0	19,839

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

社会構造のグローバル化が進む中、多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力が求められている。しかしながら、近年、高等学校においては、自分をうまく表現することや他者とのコミュニケーションを図ることが苦手なことにより、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。

プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現等のワークショップを実施することにより、自己表現を通して、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育む。

(2) 事業内容

- ・プロの演出家や俳優等を講師として招き、演劇表現等のワークショップを通じて、生徒に対しディスカッション、創作、表現等の活動を行う。
- ・高等学校における演劇等ワークショップ指定予定校 19校20課程

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	20,412	講師謝金
旅費	7,752	講師旅費
会議費	62	会議費
合計	28,226	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育ビジョン

施策I 「豊かな人間性」の育成

1 多様な人とのつながり、関わる力の向上と心の教育の充実

(2) 国・他県の状況

実績なし

(3) 後年度の財政負担

第4次岐阜県教育ビジョンによる

(4) 事業主体及びその妥当性

県立高等学校の生徒に関する事業のため、県が実施する

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

演劇等ワークショップを入学時の初期適応段階で実施することにより、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育むとともに、学校生活への適応力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
自分にはよいところがあると思う高校生の割合	84.3%	/	/	90%	90%	/

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>山県高等学校、羽島高等学校、揖斐高等学校、不破高等学校、東濃高等学校、恵那南高等学校、土岐紅陵高等学校、坂下高等学校、関有知高等学校、郡上北高等学校、飛騨高山高等学校（山田キャンパス、定時制）、飛騨神岡高等学校、華陽フロンティア高等学校（定時制）の計13校において、全1年生を対象にワークショップを実施した。</p> <p>1年生の初期適応段階において、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることができた。</p>
令和4年度	<p>山県高等学校、羽島高等学校、揖斐高等学校、不破高等学校、東濃高等学校、恵那南高等学校、土岐紅陵高等学校、坂下高等学校、関有知高等学校、郡上北高等学校、飛騨高山高等学校（山田キャンパス、定時制）、飛騨神岡高等学校、華陽フロンティア高等学校（定時制）の計13校において、全1年生を対象にワークショップを実施した。</p> <p>1年生の初期適応段階において、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることができた。</p>
令和5年度	/
<p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	受講生徒に対するアンケート結果からは、約9割の生徒が「多様なコミュニケーションスキルの習得」や「他者からの受容感」に高い満足度を示している。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	対象校13校の1年生に対してワークショップを実施し、コミュニケーション能力や自己表現力向上を図ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	対象校を精査し、現状での必要性が高い高校に対してワークショップを実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力の育成は、対象校のみならず県内の多くの高等学校が抱える課題である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和6年度実施の県立高等学校19校を中心に対象校を精査し、継続実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】